

History of Asahi / 朝日軍の歴史

前例のないこの時代に、朝日軍はその遺産を継承するべく努力を続けています。我々の目指すところの一つは、若い世代の人たちに朝日軍について知ってもらうことで、メンバーの一人が、朝日軍の歴史に関して調査しまとめることで朝日軍のことをもっと学ぼうと決めたことは素晴らしいことでもあります。より多くの若者が率先してこのような行動を取ることを、私は奨励したいと思います。朝日軍について学ぶのに、学生のプロジェクトより良い方法があるでしょうか。偉大な興味と、発見を仲間や先生と分かち合うことのできる能力なのです。

添付してある、マシュー・ヘッセがフランス語の集中授業で書いた、朝日軍についての歴史プロジェクトの文章を見ていただきたい。フランス語ではあるが、朝日軍の歴史についてより多くを学び、そして授業の中で共有した、若者が成し遂げた偉大なお手本であります。マシュー、よくがんばりました！！ より多くの学生が君の後に続いてこのような行動を取ることを望みます。添付のファイルには、バンクーバー・朝日の概要、ハリー宮崎の経歴、1921年の日本ツアーについての記述、チームが制した大会のリスト、そして第二次世界大戦中の日系カナダ人の強制収容についての記述があります。また、マシューのパワー・ポイントでのプレゼンテーションも含まれています。

Asahi - First Tour of Japan/ 朝日軍一初めての日本遠征

朝日軍が初めて日本に遠征したのは1921年でした。彼らは日本でのツアーに招待された最初の日系カナダ人チームでした。朝日軍の会長の野村政太郎は、バンクーバーから選手達と一緒に日本に遠征することを思いつき、朝日軍にぜひ日本に行くようにすすめました。彼は朝日軍の12人の選手と4人の白人の選手でチームをつくりました。当時遠征するためには、プロモーション上の理由で白人の選手を入れることが必要だったからです。朝日軍は蒸気船の鹿島丸に乗り、8月下旬にビクトリアから日本へ向けて出発しました。日本の横浜に到着するのに、約2週間かかりました。

朝日軍はツアー中、大学のチームを相手に22試合を戦いました。最初の対戦相手は東門クラブでした。その後の慶応や早稲田、立教、法政とはあまりいい試合ができませんでした。最後から三つ目の試合は、抜きつ抜かれつの名試合となりました。観客は4000人を超えていました。朝日軍の最後の対戦相手は慶応大学と三田クラブで、朝日軍はその両方に勝利し、日本に住んでいる親戚たちにカナダでの生活が上手いっていることを示すことができました。ブリティッシュ・コロンビアに戻ると、コミュニティーの人たちは新たな敬意を持って彼らを迎えました。バンクーバーに戻った後、彼らの人気はさらに高まったのです。

Harry Miyasaki /宮崎ハリー

宮崎ハリーはバンクーバー朝日を黄金時代に導きました。彼は1918年から1929年までバンクーバー朝日に所属していて、始めは選手で、その後は監督をしていました。監督時代に、彼は「頭脳野球」という新しい戦い方を発明しました。頭脳野球とは、小技と一気に得点を狙いにいく技を組み合わせたものです。

宮崎は、朝日軍が試合に勝つための戦略をただ完成させただけでなく、それを継承するシステムも構築しました。宮崎の作戦で、朝日軍は毎年素晴らしい選手を生み出していました。朝日軍は多くの人種差別の中でプレーしていたので、白人のチームからの尊敬を得るために、決して審判の判定に抗議をしませんでした。だから朝日軍は日本人のコミュニティでとても人気があったのです。頭脳野球作戦の結果、朝日軍は1936年から1941年までの6大会で連続優勝しました。

子供時代の宮崎のに関する情報はあまりありませんが、ほんの少しだけ幼少期の情報を発見できました。彼のフルネームはハリー・サンゾク・宮崎です。ハワイに生まれ、幼い頃にカナダへ引っ越しました。彼の名前は1907年の日本小学校(カナダの初等教育と中等教育の最初の一年に相当する)の卒業生の中にあります。

ハリー宮崎は1918年に朝日軍で野球を始め、1922年からは監督を始めました。彼は1922年から1929年まで監督でした。1920年代、野球はホームランや長打で優位を占める大柄な白人選手たちで成り立っていました。だから朝日軍の選手が力のある選手たちに立ち向かえるよう、宮崎は頭脳野球を考案したのです。頭脳野球は戦略に特化したので、朝日軍は点を取ることができました。頭脳野球はバント、四球、盗塁と犠牲フライで構成されています。宮崎の戦術は、速さと技術に焦点を合わせたものでした。彼には、日系コミュニティを代表する最も優れた日本人選手を集結させようという考えがありました。宮崎は朝日軍の総監督で、それは彼が“パウウェル・ストリートのマグロー”と呼ばれるようになった所以でもあります。(マグローはニューヨークヤンキースの伝説的のマネージャーでした)。朝日軍を指導していなかった頃、宮崎は自ら経営するコインランドリーで働いていました。だから彼が選手のユニフォームや靴下を洗っていたのです。宮崎はアメリカ国民でありながら、カナダが日本と戦争すると宣言するとすぐに戦争捕虜とみなされ、アングラー・キャンプに送られました。

宮崎は朝日軍で多くのことを成し遂げました。1919年の世界選手権で優勝した時は選手でした。1922年には朝日軍のコーチ兼マネージャーに任命されました。1926年には、選手でありコーチとしてターミナルリーグチャンピオンシップに勝利しました。宮崎が考案したプレイスタイルで、朝日軍は1936年から1941年まで連続で大会を制しました。2003年、ハリー宮崎は朝日とともにカナダ野球殿堂入りを果たしました。2005年には、宮崎はブリティッシュ・コロンビアスポーツ殿堂入りもしました。

朝日軍は人種差別の時代にプレーをしていましたが、朝日軍が戦っている時、宮崎は日本人にもカナダ人にも同じように称賛されました。宮崎が朝日軍のために考え出したプレイスタイルで、朝日は1936年から1941年まで6つの大会で連続優勝しました。これらの大会で勝つことは日系コミュニティにとって重要でした。なぜなら朝日軍はコミュニティの誇りだったからです。

ハリー宮崎は残念なことに亡くなりましたが、彼の遺産は受け継がれています。今日、朝日ベースボールアソシエーションは、尊敬の念とスポーツマン精神を持ってプレーすることで、彼が約100年前に成し遂げたものを継承しています。

The Internment of Japanese Canadiens / 日系カナダ人の強制収容

1941年は朝日軍にとって最後のシーズンとなりました。というのも、22,000人の日系人々がブリティッシュ・コロンビア州内の労働収容所や収容所に強制収容されたからです。1941年12月、カナダ政府は日系人をカナダ国内で強制移動させるために戦時措置法を使用しました。収容所に行く人々はみな、小さなスーツケースをふたつまでしか持つことが許されませんでした。朝日軍の選手たちはそれぞれ違う収容所に送られることになっていましたが、彼らのスーツケースにはユニフォームやグローブ、チームの写真が入っていました。収容所に送られる前、日本人はヘイスティング・パークに移動させられました。そこで彼らはブリティッシュコロンビア州内の急造の収容所やゴースタウンに移送されるまで、家畜小屋に住まわされたのです。

日本がハワイの真珠湾を攻撃したので、カナダは日本に宣戦布告することになりました。その結果、カナダ政府は太平洋の海岸から内地160km以内の場所に住んでいる全ての日系人(そのうちの75%はカナダ国籍を持っていた)に対して戦時措置法を使用しました。日本人は敵性外国人であり、労働収容所や強制収容所に収容されました。収容所の環境はひどいものでした。警備兵は親しく接してくれたようですが、1942年の冬は特に厳しいものでした。収容された地のほとんどはとても寒く、水道もありませんでした。

朝日軍のベテラン選手たちは収容所で野球チームを結成しました。彼らはまた、若い人々に試合に参加するようにすすめました。そして1943年のカナダの独立記念日に、タイ・菅が監督を務めるレモンクリーク・オールスターズは、スローカン・バレーのちかくの3つの収容所のチームと試合をしました。日本人同士が移動して再会すること許されたのはこれが初めてでした。第2次世界大戦の終わりに日系人が解放された後、朝日軍がチームとして試合をすることはありませんでした。彼らはバンクーバーに戻ることができませんでした。なぜなら、バンクーバーに帰るお金も何もかもなかったからです。朝日軍は、他の日系カナダ人と同様に、もといた場所に戻る術がありませんでした。その理由は、連邦政府によって仕事や家を奪われ売られたからです。

日本語訳

語り部ジュニア二期生(岡本亜樹、栗林愛結、祭本知里、祭本佳恵、田端美波、中村紗和)
Translated by Kataribe Junior (Aki Okamoto, Ayu Kuribayashi, Chisato Saimoto, Yoshie Saimoto, Minami Tabata, Sawa Nakamura)